

# 検査情報月報



横浜市衛生研究所

# 令和7年12月号 目次

## 【検査結果】

横浜市内のマダニ類調査結果（令和6年度） ..... 1

食品中の動物用医薬品検査結果（令和7年4月～9月） ..... 4

## 【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和7年11月） ..... 6

## 【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告\*（令和7年11月） ..... 7

\* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo-fukushi/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

# 横浜市内のマダニ類調査結果（令和6年度）

## 1 はじめに

マダニ類は日本に約50種が生息しており、すべての種が吸血し、主に哺乳類や鳥類、爬虫類などに寄生します。ダニ媒介感染症は、病原体を保有するダニが吸血の際に病原体を媒介することによって起こる感染症のことです。マダニ類による吸血は、幼虫、若虫、成虫の各ステージで1回ずつ、生涯で3回行われ（図1）、いずれも病原体を媒介するリスクがあります。

ヒトの主なダニ媒介感染症は、急性重症熱性血小板減少症候群（severe fever with thrombocytopenia syndrome; SFTS<sup>①</sup>）、ウイルス脳炎、日本紅斑熱、ライム病などが挙げられ、特に近年ではSFTSが問題となっています。

SFTSは、日本国内で2013年（平成25年）1月に死亡例が初めて報告されて以来、2025年（令和7年）7月31日現在まで、累計患者数1,185名（うち死亡例126例）が報告されています<sup>②</sup>。

SFTSの推定感染地は西日本を中心でしたが、2025年7月に神奈川県内を推定感染地とする初めてのSFTS患者が確認され、8月には北海道から推定感染地域の報告があり、全国的に感染拡大や患者発生が危惧されるようになってきました。さらにSFTSを発症したイヌやネコなどの愛玩動物等からの接触感染が報告され、2024年には国内初のヒトヒト感染症例も報告されています。

横浜市でもマダニ類の捕獲、種の鑑別を行い、市内に生息するマダニ相を把握するとともに、ウイルス検査が行える体制を整えておくことが必要です。そのため、市内の緑地や公園において、マダニ類の生息状況調査を行い、捕獲したマダニ類のSFTSウイルス遺伝子検査を行っています。

本稿では、令和6年度に実施した調査結果について報告します。

## 2 調査方法

### （1）マダニ類の採集

マダニ類の採集は、旗振り法（フラッギング法）により行いました。旗振り法とは、白色フランネル布（30×45cm）を長さ約1メートルの棒の一端に付け、地表の植生や落ち葉の上をこすり、マダニ類を採集する方法です（写真1）。調査者一人当たり約30分間調査を行いました。

令和6年度は、栄区瀬上市民の森（以下円海山とする）及び金沢区富岡総合公園の2地点で調査を行いました。調査は、円海山は2024年3月～5月及び10～12月の各月1回計6回、富岡総合公園は2024年3月、5月及び10～12月の各月1回計5回行いました。

採集したマダニ類は、成虫については実体顕微鏡で、若虫及び幼虫については光学顕微鏡で同定しました。

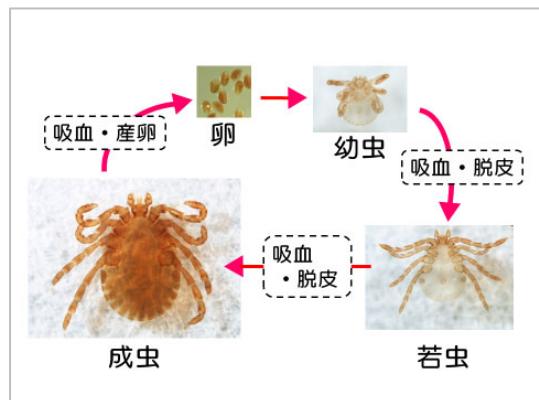


図1 マダニ類の生活史



写真1 旗振り法（フラッギング法）

## (2) SFTSウイルス遺伝子検査

採集したマダニ類の成虫及び若虫の一部について、同定、計数後にSFTSウイルス遺伝子検査<sup>\*3</sup>を行いました。

## 3 結果

### (1)マダニ類の採集

調査地点別のマダニ類の捕獲数を表1に示しました。

表1 調査地点別のマダニ類捕獲数

種類	円海山	富岡総合公園	合計
キチマダニ	419 (96.1%)	17 (70.8%)	436 (94.8%)
フタトゲチマダニ	5 (1.1%)	0 (0%)	5 (1.1%)
アカコッコマダニ	2 (0.5%)	7 (29.2%)	9 (2.0%)
ヤマトマダニ	10 (2.3%)	0 (0%)	10 (2.2%)
合 計	436	24	460

令和6年度の調査では、採集されたマダニ類は4種460個体でした。調査地点別では、円海山が436個体、富岡総合公園が24個体でした。

円海山では、6回の調査でキチマダニ *Haemaphysalis flava*、フタトゲチマダニ *H. longicornis*、アカコッコマダニ *Ixodes turdus*、ヤマトマダニ *I. ovatus*の4種が採集されました。キチマダニが最も多く採集され、96.1%を占めました。

富岡総合公園では、5回の調査でキチマダニ、アカコッコマダニが採集されました。

円海山におけるキチマダニのステージ別捕獲状況について、6回の調査結果を、調査者一人当たりに換算し、図2に示しました。

成虫、若虫はいずれの回も捕獲されました。成虫は春期に捕獲数が多く、秋期には少ない傾向がみられました。若虫は秋期に捕獲数が多く、特に12月の捕獲数が多く、5月にはわずかになりました。幼虫は10月と11月に捕獲されました。

富岡総合公園における捕獲状況について、月別の捕獲数を表2に示しました。キチマダニは、いずれの回も捕獲され、アカコッコマダニは3月と10月に捕獲されましたが、いずれも個体数はわずかでした。キチマダニは成虫が5月に、若虫がいずれの回も捕獲されました。アカコッコマダニは3月に成虫2個体、若虫1個体と幼虫3個体、10月に幼虫が1個体捕獲されました。

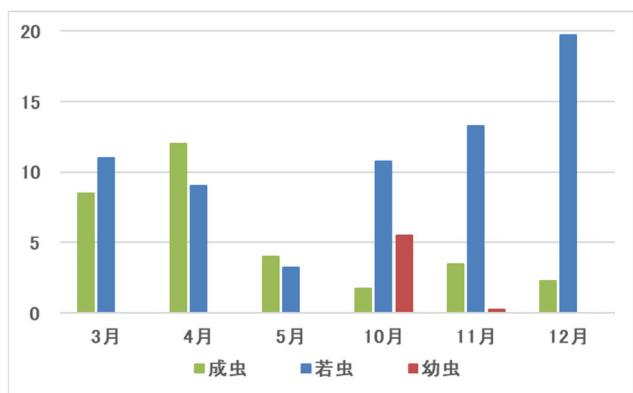


図2 円海山における調査者一人当たりのキチマダニのステージ別捕獲状況

表2 富岡総合公園のマダニ類の月別捕獲数

種類	3月	5月	10月	11月	12月
キチマダニ	2	2	3	4	6
アカコッコマダニ	6	0	1	0	0
合 計	8	2	4	4	6

## (2) SFTSウイルス遺伝子検査

捕獲されたマダニ類の成虫及び若虫の一部について、SFTSウイルス遺伝子検査<sup>\*3</sup>を行いました。

円海山については、キチマダニ、フタトゲチマダニ、アカコッコマダニ、ヤマトマダニ、合計30個体、富岡総合公園については、キチマダニ、アカコッコマダニ、合計14個体の検査を行いました。

表3 SFTSV検査を行ったマダニ類

調査地点	キチマダニ		フタトゲチマダニ		アカコッコマダニ		ヤマトマダニ		合計
	成虫	若虫	成虫	若虫	成虫	若虫	成虫	若虫	
円海山	22	0	0	5	1	0	2	0	30
富岡総合公園	1	12	0	0	1	0	0	0	14
合 計	23	12	0	5	2	0	2	0	44

いずれの検体からもSFTSウイルス遺伝子は検出されませんでした。

今後も市内におけるマダニ類の調査を実施し、生息状況やウイルス保有の有無について監視を継続していきます。



写真2 キチマダニ成虫

<sup>\*1</sup>:SFTSは、2018年の国際ウイルス分類委員会(ICVT)の新規分類で、フェニュイウイルス科(Family Phenuiviridae)バンヤンウイルス属(Genus Banyangvirus)に分類されるフアイヤンシャン・バンヤンウイルス(Huaiyangshan banyangvirus)に科名、属名、ウイルス名が変更された。ただし、本稿では、広く一般に用いられている病名およびウイルス名である、SFTS及びSFTSウイルスを用いた。

<sup>\*2</sup>:遡り調査の結果判明した2005年(平成17年)からの患者4人は、感染症発生動向調査で届出が求められる以前に診断されたため含まれていない。

<sup>\*3</sup>:国立感染症研究所獣医学部SOP「マダニからのSFTSウイルス検出マニュアル(ver3.1)」による。

【 微生物検査研究課 医動物担当 】

# 食品中の動物用医薬品検査結果（令和7年4月～9月）

動物用医薬品は動物における疾病の治療及び予防、並びに発育促進を目的として使用されています。畜水産食品中に残留する動物用医薬品が人の健康に害を及ぼすことのないよう、消費者庁は動物用医薬品について残留基準を設定しています。

当所では、市内流通及びインターネット購入品の畜水産食品について検査を行っています。今回は、医療局食品専門監視班が令和7年4月、6月及び9月に収去及びインターネットで購入した食品の検査結果を報告します。

4月には、牛の筋肉3検体、豚の筋肉3検体、牛の脂肪3検体及び豚の脂肪3検体の計12検体について、検査を行いました。6月には、ギンザケ5検体、ブリ2検体、エビ1検体及びうなぎ蒲焼2検体の計10検体について検査を行いました。また、9月には、牛の筋肉2検体、豚の筋肉5検体、鶏の筋肉1検体及び豚の脂肪3検体の計11検体について、検査を行いました。

その結果、表1に示す通りブリ1検体からオキシテトラサイクリン0.03ppmを検出しましたが、基準値(0.2ppm)を下回っていました。表1及び表2に示す通り、その他の項目は全て不検出でした。

表1 畜産物の筋肉及び魚介類等の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果							
	畜産物の筋肉			魚介類及び魚介類加工品				検出限界
	牛筋肉 (5検体)	豚筋肉 (8検体)	鶏筋肉 (1検体)	ギンザケ (5検体)	ブリ (2検体)	エビ (1検体)	うなぎ蒲焼 (2検体)	
【合成抗菌剤】								
ニトロフラントイソ	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラゾリドン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フランタドン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
マラカイトグリーン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.002
ロイコマラカイトグリーン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.002
エンロフロキサシン(シプロフロキサシンとの和)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オキソリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
クロビドール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファクロルピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメトキシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファセタミド	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファチアゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	0.01
スルファドキシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファピリジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファベンズアミド	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメトキシザール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメトキシピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01

表1(続き) 畜産物の筋肉及び魚介類等の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果							検出限界	
	畜産物の筋肉			魚介類及び魚介類加工品					
	牛筋肉 (5検体)	豚筋肉 (8検体)	鶏筋肉 (1検体)	ギンザケ (5検体)	ブリ (2検体)	エビ (1検体)	うなぎ蒲焼 (2検体)		
スルファメラジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01	
スルファモイルダプソン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01	
スルファモノメタキシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01	
スルフィソゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01	
スルフィソミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01	
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01	
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01	
トリメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01	
ナイカルバジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01	
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01	
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01	
ピリメタミン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01	
ピロミド酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01	
フルメキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01	
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01	
ミロサマイシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01	
【抗生素】									
OTC、CTC及びTCの和*	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	-	-	0.02	
オキシテトラサイクリン	-	-	-	N.D.	0.03	N.D.	N.D.	0.02	
						N.D.			
クロルテトラサイクリン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.03	
テトラサイクリン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02	
クロラムフェニコール	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.005	
【寄生虫用剤】									
フルベンダゾール	-	-	N.D.	-	-	-	-	0.002	
レバミゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01	

単位:ppm N.D.:不検出 -:実施せず

\*:オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン及びテトラサイクリンの和

表2 畜産物の脂肪の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果		検出限界
	牛脂肪 (3検体)	豚脂肪 (6検体)	
【寄生虫用剤】			
イベルメクチン	N.D.	N.D.	0.005
エプリノメクチン	N.D.	N.D.	0.005
ドラメクチン	N.D.	N.D.	0.005
モキシデクチン	N.D.	N.D.	0.005

単位:ppm N.D.:不検出

【理化学検査研究課 微量汚染物担当】

# 衛生研究所ウェブページ情報（令和7年11月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトに統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和7年11月の追加・更新記事について報告します。

## 1 追加・更新記事

令和7年11月に追加・更新した主な記事は、5件でした。

掲載月日	内容
11月4日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第12回)
11月13日	2025年度横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果
11月13日	横浜市インフルエンザ流行情報第45週
11月17日	感染症に気をつけよう(11月号)
11月27日	横浜市インフルエンザ流行情報第47週

## 2 記事紹介

横浜メディカルダッシュボード

<https://iryo-dashboard.city.yokohama.lg.jp/>

横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/byogentai/infc-kabaikai.html>

横浜市インフルエンザ流行情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/rinji/rinji.html>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

ソーシャルメディア

[https://www.instagram.com/eiken\\_yokohama\\_official](https://www.instagram.com/eiken_yokohama_official)

【 感染症・疫学情報課 】

# 横浜市感染症発生動向調査報告（令和7年11月）

委員会開催日(2025年11月25日)時点のデータになります。

## 『今月のトピックス』

- インフルエンザの流行警報が発令されました。昨シーズンと比較して1か月ほど早い流行で、患者報告数も増加が続いています。
- 腸管出血性大腸菌感染症は集団感染(県外)の報告があります。
- インフルエンザなどを原因とした急性脳炎の報告が複数あります。
- 梅毒は幅広い年齢層で患者の報告が続いています。

## ◇ 全数把握の対象 <2025年10月20日～11月23日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	24件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
E型肝炎	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
レジオネラ症	6件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	5件	梅毒	23件
急性脳炎	3件	百日咳	67件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件		

1. **腸管出血性大腸菌感染症:**10歳未満～60歳代で、O血清群はO157が19件、O26が2件、O103が2件、O166が1件です。経口感染と推定される報告が14件、接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が9件です。
2. **E型肝炎:**いずれも50歳代で、感染経路等は不明です。
3. **A型肝炎:**30歳代で、感染経路等は不明です。
4. **レジオネラ症:**60歳代～90歳代で、肺炎型が5件、ポンティック熱型が1件です。感染経路は水系感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が4件です。
5. **アメーバ赤痢:**30歳代～60歳代で、経口感染と推定される報告が1件、性的接触(同性間)と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件です。
6. **急性脳炎:**10歳未満～10歳代で、病型はインフルエンザAが2件、単純ヘルペスウイルスが1件です。感染経路は、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が2件、接触感染と推定される報告が1件です。
7. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症:**60歳代で、血清型はA群です。感染経路等は不明です。
8. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):**20歳代～40歳代で、感染経路は性的接触(同性間)と推定される報告が3件、感染経路等不明の報告が1件です。
9. **侵襲性インフルエンザ菌感染症:**いずれも80歳代で(ワクチン接種歴不明)、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
10. **侵襲性肺炎球菌感染症:**10歳未満～80歳代で(ワクチン接種歴4回が2件、1回が1件、無が1件、不明が2件)、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が4件、感染経路等不明の報告が2件です。
11. **水痘(入院例に限る):**80歳代で、(ワクチン接種歴不明)、感染経路等は不明です。
12. **梅毒:**20歳代～80歳代で、早期顎症梅毒Ⅰ期10件、早期顎症梅毒Ⅱ期3件、無症状病原体保有者10件です。性的接触による感染と推定される報告が17件(異性間12件、同性間1件、同性間・異性間1件、詳細不明3件)、感染経路等不明が6件です。
13. **百日咳:**10歳未満～90歳代(ワクチン接種歴4回18件、2回1件、無3件、不明45件)で、家族内感染と推定される報告が9件、周囲の流行と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が56件です。

報告週対応表	
2025年第43週	10月20日～10月26日
第44週	10月27日～11月2日
第45週	11月3日～11月9日
第46週	11月10日～11月16日
第47週	11月17日～11月23日

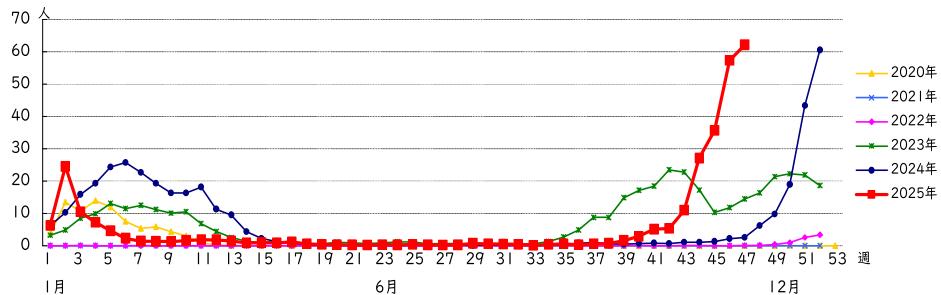
## ◇ 定点把握の対象

※ 2025年第14週(3月31日～4月6日)以降、小児科定点は94→51、内科定点は59→39 医療機関に変更されました。

## 1 インフルエンザ

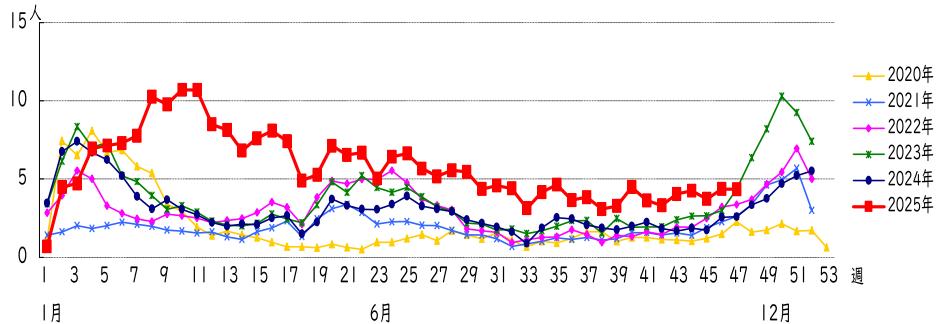
第37週(9月8日～9月14日)

以降増加が続き、第43週(10月20日～10月26日、定点あたり10.95)に流行注意報発令基準(10.00)を、第45週に35.99で、流行警報発令基準(30.00)を超えてました。その後増加が続き、第47週は62.12です。詳細は横浜市インフルエンザ流行情報をご覧ください。



## 2 感染性胃腸炎

過去5年の同時期と比較すると比較的高い値で推移しています。第47週は3.73です。



## 3 性感染症(2025年10月)

性器クラミジア感染症	男性:40件	女性:17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:20件	女性:15件
尖圭コンジローマ	男性:20件	女性:3件	淋菌感染症	男性:20件	女性:2件

## 4 基幹定点週報

	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	<b>0.25</b>	<b>0.25</b>	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	<b>1.50</b>	<b>1.75</b>	<b>1.50</b>	<b>0.50</b>	<b>0.50</b>
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

## 5 基幹定点月報(2025年10月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	16件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科・ARI(急性呼吸器感染症)定点:5か所、ARI定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計14か所を設定しています。

検体採取は、小児科・ARI定点とARI定点で毎週実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2025年第43週～第47週に病原体定点から搬入された検体は、ARI(急性呼吸器感染症)定点162件、小児科定点3件、基幹定点4件でした。

12月1日現在、表に示した各種ウイルスの分離3株と遺伝子142件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2025年第43週～第47週)

分離・検出ウイルス	主な臨床症状等		インフルエンザ	RSウイルス感染症	発熱
	上気道炎	下気道炎			
新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)	1				
	5				
インフルエンザウイルス AH3	－	－	－		－
	51	12	3		5
インフルエンザウイルス A (型未同定)	－				
	10				
インフルエンザウイルス B (型未同定)	－				
	1				
ライノウイルス	－	－			
	17	6			
ライノウイルスorエンテロウイルス	－	－			
	14	1			
パラインフルエンザウイルス 2型	1				
	1				
パラインフルエンザウイルス 4型	－				
	1				
RSウイルス	－			－	
	7			2	
ヒトメタニユーモウイルス	－	－			
	1	2			
アデノウイルス 1型		1			
		－			
アデノウイルス 型未同定	－	－			
	2	1			
合 計	2	1	－	－	－
	110	22	3	2	5

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【微生物検査研究課 ウィルス担当】

### 〈細菌検査〉

2025年第43週～第47週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症20件、侵襲性肺炎球菌感染症2件、侵襲性インフルエンザ菌感染症2件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件でした。

基幹定点からの検査依頼はサルモネラ症1件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症5件でした。

病原体定点医療機関からの検査依頼は「小児科定点」から溶血性レンサ球菌咽頭炎7件、感染性胃腸炎1件、「ARI定点」から2件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2025年第43週～第47週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	20	O157:H7 O157:H7 O26:H11 O103:H2 O103:H- O111:H- O166:H28 O168:HUT	VT1 VT2 VT2 VT1 VT1 VT1 VT1 VT2 VT2
				(12) (2) (1) (1) (1) (1) (1) (1)
基幹定点	サルモネラ症	1	<i>Salmonella</i> Muenchen (1)	
分離同定	項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所	レジオネラ症	5	喀痰	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (2) レジオネラ属菌 培養陰性 (3)
小児科サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液 便	溶血性レンサ球菌咽頭炎 感染性胃腸炎	7 1	A群溶血性レンサ球菌 T4 (5) A群溶血性レンサ球菌 T型別不能 (2) <i>Staphylococcus aureus</i> エンテロトキシンA産生 (1)
ARIサーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
ARI定点	咽頭ぬぐい液	ARI	2	百日咳菌遺伝子 陰性 (2) 肺炎マイコプラズマ遺伝子 陰性 (2) 溶血性レンサ球菌 培養 陰性 (2) 百日咳菌培養 陰性 (2)

【微生物検査研究課 細菌担当】